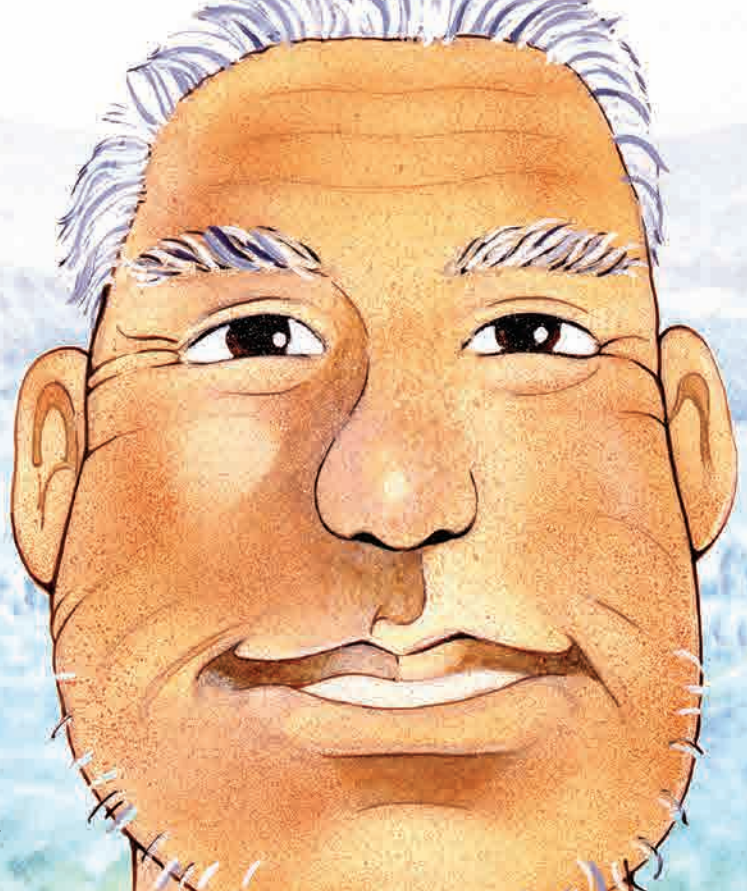
農林水産省登録
第16301号

畑の顔



これが

病害防除の顔役

石原 トリフミン® 水和剤

特長
- ●多くの病害に効果があり、防除の困難な病害の基幹防除剤として適します。
- ●予防効果と治療効果に優れ、病斑の拡大や胞子形成を阻止します。
- ●浸達性に優れるので、散布後の降雨も効果にほとんど影響がありません。

■適用病害と使用方法

*印は、収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前（摘採前）の日数と、本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

作物名	適用病害名	希釈倍数（倍）	使用液量	使用時期*	総使用回数* 本剤	総使用回数* トリフルミゾール	使用方法
りんご	黒星病、うどんこ病 赤星病、斑点落葉病	2,000～3,000	200～700ℓ/10a	前日	3回	3回	散布
なし	黒星病、赤星病						
かき	うどんこ病	2,000					
	黒点病						
ぶどう	うどんこ病	2,000～3,000					
	黒とう病、褐斑病	2,000		7日			
もも	灰星病、黒星病	1,000～1,500		前日			
	うどんこ病	1,500～2,000					
すもも	灰星病	1,000					
おうとう		1,000～1,500		14日	2回	2回	
うめ	黒星病	2,000			3回	3回	
マルメロ	赤星病						
かりん				前日			
あけび（果実）	うどんこ病			3日			
マンゴー				7日			
いちじく	株枯病	500	1～10ℓ/株	前日	4回	7回（散布は3回 灌注は4回）	灌注
	さび病、そうか病	2,000	200～700ℓ/10a		3回		散布
とうもろこし（子実）	すす紋病	2,000～4,000	100～300ℓ/10a	30日		3回	
未成熟とうもろこし				7日			
にんじん	うどんこ病	3,000		前日			
いちご	じゃのめ病、輪斑病						
ピーマン さやえんどう 実えんどう	うどんこ病	3,000～5,000			5回	5回	
メロン	つる枯病、陥没病	3,000					
すいか	つる枯病						
	うどんこ病	3,000～5,000					
きゅうり	つる枯病	3,000					
	うどんこ病、黒星病	3,000～5,000					
にがうり	うどんこ病	3,000			3回	3回	
うり類（漬物用）	つる枯病、炭疽病	3,000～5,000			5回	5回	
かぼちゃ	うどんこ病					5回（種子粉衣は1回）	
	フザリウム立枯病	種子重量の0.3%	―	は種前	1回		種子粉衣（湿粉衣）
トマト ミニトマト	葉かび病	3,000～5,000	100～300ℓ/10a	前日	5回	5回	散布
	うどんこ病、すすかび病	3,000					
なす	すすかび病						
	うどんこ病	3,000～5,000					
とうがらし類		4,000～5,000					

石原トリフミン®水和剤

有効成分：トリフルミゾール……30.0%　殺菌剤分類　3
人畜毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指していう通称）

適用病害と使用方法

＊印は、収穫物への残留回避のため、その日まで使用できる収穫前（摘採前）の日数と、本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

作物名	適用病害名	希釈倍数（倍）	使用液量	使用時期＊	総使用回数＊ 本剤	総使用回数＊ トリフルミゾール	使用方法
ねぎ	萎凋病	50	―	定植直前	1回	1回	5～30分間苗根部浸漬
		100	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌約5ℓ）当り0.5ℓ	定植前			苗床灌注
		200	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌約5ℓ）当り1ℓ				
たまねぎ	乾腐病	50	―	定植直前			5分間苗根部浸漬
		50～100	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌約5ℓ）当り0.5ℓ	定植前			苗床灌注
		100	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（30×60cm、使用土壌約5ℓ）当り0.5～1ℓ				
こんにゃく		50	種いも1m²当り150mℓ	植付前			種いもの芽基部に散布
らっきょう			―				5～30分間種球浸漬
	黒球病						5分間種球浸漬
かんしょ	基腐病	2,000～3,000	100～300ℓ/10a	前日	2回	3回（植付前の処理は1回、植付後は2回）	散布
		16	0.8～1.6ℓ/10a				無人航空機による散布
	つる割病	500	―	植付前	1回		17時間苗基部浸漬
アスパラガス	立枯病	1,000	3ℓ/m²	7日		1回	灌注
食用ゆり	鱗茎さび症	50	―	植付前			種球瞬間浸漬
パセリ	うどんこ病	8,000	100～300ℓ/10a	30日			散布
セルリー	斑点病	2,000		前日	2回	2回	
葉しょうが	白星病	1,000		7日	3回	3回	
しょうが	褐色しみ病、白星病			前日	5回	5回	
ごぼう	うどんこ病				3回	3回	
オクラ	黒斑病、うどんこ病 葉すす病	5,000					
しそ	さび病			収穫開始10日前まで（収穫開始後は使用しない）			
にら		2,000		14日			
ふき	うどんこ病	3,000					
ふき（ふきのとう）	うどんこ病、さび病			45日			
にんにく	葉枯病	2,000		前日			
稲	ばか苗病 いもち病 ごま葉枯病	30	―	浸種前	1回	1回	10分間種子浸漬
		300					24～48時間種子浸漬
		乾燥もみ重量の0.5%					種子粉衣（湿粉衣）
		7.5～15	乾燥種もみ1kg当り30mℓ				種子吹き付け処理（種子消毒機使用）
麦類	斑葉病、裸黒穂病 なまぐさ黒穂病、網斑病	種子重量の0.5%	―	は種前		3回（種子粉衣は1回）	種子粉衣
	うどんこ病、赤かび病	1,000～2,000	60～150ℓ/10a	14日	3回		散布
茶	炭疽病	1,500～2,000	200～400ℓ/10a	（摘採）14日		3回	
	もち病	1,000～1,500					
たばこ	うどんこ病	5,000	25～180ℓ/10a	10日	2回	2回	
ばら		3,000～5,000	100～300ℓ/10a	発病初期	5回	5回	
きく		3,000					
	白さび病	1,000					
花き類・観葉植物（ばら、きくを除く）	うどんこ病	3,000					
樹木類（しきみを除く）			200～700ℓ/10a				
しきみ		60	10～30ℓ/10a				無人航空機による散布
チューリップ	球根腐敗病	球根重量の0.2%	―	植付前	1回	1回	球根粉衣

⚠効果・薬害等の注意

●なしの品種「幸水」に使用する場合は、樹勢が弱いと高濃度で葉に軽度な黄斑を生じる場合があるので、所定範囲内の低濃度で使用してください。
●なしでは、MEP剤との混用により薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
●いちじくの株枯病に対して灌注処理する場合は次のことに注意してください。
①1ヶ月間隔で使用することをおすすめします。
②根域に対する処理量が著しく多いと、生育抑制などの薬害を生じるおそれがあるので、根域に合わせて処理量や回数を調整してください。
●りんごに使用する場合、黒星病、赤星病、うどんこ病の防除を主体とし、斑点落葉病に対しては、落花後20日頃までの初期防除剤として使用してください。
●かきの黒点病に対しては、多発時には効果が劣る場合があるので、注意してください。
●ウリ科作物の幼苗期には、濃緑化症状及び生育抑制が生じることがあるので、使用しないでください。
●チューリップの球根粉衣に使用する場合は、適当な容器内で球根に均一に粉衣してから植付けてください。
●スイトピーに使用する場合は、薬害が生じるおそれがあるので、開花期以降は使用をさけてください。
●カラー及び花はすに使用する場合は、湛水状態で使用しないでください。また、使用後14日間は入水しないでください。
●水稲の種子消毒に使用する場合は、次の注意事項を守ってください。
①種子消毒は浸種前に行ってください
②浸漬処理の場合、もみと処理薬液の容量比は1:1以上とし、種もみはサラン網など粗目の袋を用い、薬液処理時によくゆすってください。
③粉衣処理の場合は、付着をよくするため、湿粉衣としてください。
④吹き付け処理の場合は、種子消毒機を使用し、種もみに均一に付着させて乾燥してください。
⑤処理した種もみは、風乾後、水洗いせずに浸種してください。
⑥消毒後の浸種は水槽で行い水の交換は原則として始めの2日間は行わないでください。その後換水する場合は静かに行ってください。
⑦粉衣処理、高濃度浸漬（30倍）及び吹き付け処理をした種子を播種する場合は、浸種終了後、浸種液中で過度の付着薬剤をゆすぎ落としてください。
⑧軽度の初期生育遅延が認められる場合もありますが、その後回復するので通常の管理を維持してください。
●蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
●無人航空機による散布で使用する場合は、次の注意事項を守ってください。
①散布は散布機種の散布基準に従って実施してください。
②散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
③散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行ってください。
④散布薬液の飛散によって自動車の塗装などに被害を与えるおそれがある等、各分野に影響があるので、散布区域内の諸物件に十分留意してください。
⑤散布終了後は機体の散布装置は十分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。また、使用後の空の袋は放置せず、安全な場所に廃棄してください。
●使用方法などを厳守してください。特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。
●適用作物群に属する作物又はその新品種に初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。

⚠安全使用上の注意

●誤飲・誤食などのないように注意してください。誤って飲み込んだ場合は吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。
●本剤が眼に入らないように注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。（刺激性）
●皮ふに付着しないように注意してください。付着した時は直ちに石けんでよく洗い落としてください。（弱い刺激性）
●使用の際は、農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣を着用してください。また、薬剤を吸い込んだり、浴びたりしないよう注意し、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに、衣服を交換してください。
●作業時に着用していた衣服等は他のものと分けて洗濯してください。
●かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
●街路・公園等で使用する場合は、使用中及び使用後（少なくとも使用当日）に小児や使用に関係ない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないように注意を払ってください。

水産動植物への影響：水産動植物（魚類）に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。無人航空機による散布で使用する場合は、飛散しないよう特に注意してください。浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

保管：密封し、直射日光をさけ、食品と区別して、小児の手の届かない、冷涼・乾燥した所。

●使用前にはラベルをよく読んでください。　●ラベルの記載以外には使用しないでください。　●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

本資料は2024年4月現在の登録内容に基づいています。

JAグループ
農協 | 全農 | 経済連
全農は登録商標　第4702318号

ISK 石原バイオサイエンス株式会社
〒102-0071　東京都千代田区富士見2丁目10番2号
ホームページ アドレス https://ibj.iskweb.co.jp

ホームページの製品情報▼

2404ZNK